
世代を越えて

たけのこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世代を越えて

【Nコード】

N8411X

【作者名】

たけのこ

【あらすじ】

ある日、風邪を引いたツナが見た夢。それはボンゴレ一世とある少女が出会う話だった。そして、数週間後にその少女がツナ達の前に現れて……。

はじまり

日本―並盛町

「……………」

「…え…………だ、誰えええ!!?」

何故オレが今絶叫しているかというと、それは数週間前の事から説明しなければならぬ…。

——朝

「…スー…スー…」

沢田綱吉ことツナは、小さな寝息を立ててベッドで寝ていた。
すると階段からドタドタと騒がしい足音が聞こえ、扉がバタンツと
勢いよく開いたかと思うと…

ドスーンッ

「——————ツツ!!」

「ぎやはははは!! ツナ起きろー!!」

「ランボ ダメ!!」

ツナの上で大声で叫ぶ子供——ランボは訳あって、沢田家に居候している五歳児だ。

それと、ベッドの横でランボに注意をしているのは、中華服で三つ編みのイーピンだ。

「…うう…いてて…」

ツナは踏んづけられたお腹をさすりながら起きた。

リビングに行くと、ツナの母——奈々がキッチンで朝食をちょうど作り終えたところだった。テーブルにはフウ太が先にごはんを食べている。

一緒に降りてきたランボとイーピンはすぐにイスに座り、早速朝食を食べている。

いつもなら、リボンとビアンキも一緒にテーブルに座って食べているのだが、二日前に二人でイタリアの9代目の所に行っている。ちなみに、今日の朝食は目玉焼きとソーセージとご飯である。

「ツッ君おはよう。今日は早いわね」

「ツナ兄おはよう」

「母さん、フウ太、おはよう」

ツナは、何故か体にだるさが混じっていて、挨拶にも元気がない。だが、本人はあまり気にしてはいないようだ。

それよりも学校があるので、早くごはんを食べようとイスに座った。

「今日もママンの目玉焼きおいしいもんね！」

「そう？ おかわりもあるからいっぱい食べてね」

しばらく微笑ましい会話が続いていた。

はじまり（後書き）

初めまして。超初心者の方の たけのこと と言うものです。

「世代を越えて」を読んでもいただき、ありがとうございます！
何かおかしな事があれば、指摘してくれるとありがたいです！
（初心者ゆえ、更新は遅いです。）

これからも「世代を越えて」をよろしくお願いします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8411x/>

世代を越えて

2011年11月15日02時01分発行